

平成 24 年 1 月 20 日

1 月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木は間伐を主体に順調な生産が続き、平年を上回る入荷量。製材工場は「積極的な手当」から「通常の引合い」になっている。品薄感が強い中目良材は依然として好調だが、その他は先行き需要動向を注視しながら、当用買いの模様。高止まっていた相場は修正局面となり、全般的に弱保合で推移。スギ、ヒノキともに間伐材が多い中で、品薄な高齢級中目材は高値で落札されている。堆肥として活用してきた樹皮が、原発事故関連で滞留し、市場機能に多大な支障を生じている。群馬は原木の入・集荷、在庫ともに特に問題ないが、原木の消費はやや少なめ。製品の受注・販売は引き続き芳しくなく、工場の操業は低水準が続く。昨年の夏以降受注は低調で、年末には老舗のプレカット工場の廃業など、県内業界に良い話が聞こえてこない状況。

2. 米材

11 月の米国新設住宅着工戸数は、前月比 9.3%増の年率 68.5 万戸。米国丸太は、中国の丸太需要の低迷により、早々に丸太の出材が調整されたため、産地価格は下落を抑えられ保合の状況。カナダ丸太も同様で、セカンドは保合、オールドは強保合。12 月の産地港頭在庫は約 8,000 万スクリブナー(約 37 万^m³)。また、ウェアハウザー社の 1 月積み米マツ IS ソートは、前月価格を据置き。米材丸太の入・出荷、在庫とも横這い。大型港湾製材工場の 12 月の荷動きは引き続き好調。内陸部製材工場はバラツキはあるが、総じて低調。製材品の 12 月入荷は低迷。TLT(東京木材埠頭) の入荷は前月比 35%減。一方、出荷は同 27%増、在庫は 30%の大幅減。産地情勢はカナダは、丸太の出荷が順調で、生産の稼働状況に変化なし。米国は丸太が順調に手当てできているシッパーとそうでないところとの格差が生じている。産地価格は全般に円高が影響し上昇気味。

3. 南洋材

サバは雨季のため出材量は引き続き低調。伐採業者は旧正月を控え新規伐採を止め、既に伐採された材の運材に従事。今後出材減は必至だが、輸出量が減少しているため、国内の工場には比較的順調に丸太が供給。丸太相場は並材は

頭打ちとなっているが、太材良材は引き続き強含み。製材品は 2 等品は別にして、1 等品は高値で張り付く。サラワクは、昨年 1 年を通して天候不順だったが、現在も悪天候で出材が停滞。ただ、インドがルピー安、過剰在庫、景気後退等から買い控えしているのが、港頭及び工場の不足感は無い。日本向けはメーカー売り繋ぎで、ある程度の配船は行われている。丸太相場は太材良材を除き弱含み。PNG・ソロモンは、生産が順調なうエインドからの引合いが強く強含み状況。丸太の入・出荷はやや減少し、在庫は横這い。製材品入荷も横這い。原木の販売は、合板用・製材用ともに変わらず。製材品の販売は、引き続き集成材の荷動きが全般的に鈍いが、平割、棒類の入荷が順調でないこともあり荷動きは良い。

4. 北洋材

ロシア極東は、冬山造材が本格化。中国向けは貨車・本船輸送とも需要は上向きで、底値は脱した模様だが、この動きは先行き不透明。日本向けは米材との価格差が 10~15 \$ /m³ に近づいてきたが、一旦転換された原料構造は回復が難しく、細々とした入荷が続く。シベリア地方も冬山が本格化した、満州里からの引合いは例年より弱い。但し、貨車不足が慢性化しており、これが皮肉にも需給引締めの一役買っている。富山港・富山新港の 12 月丸太入荷は 4,354 m³ (アカマツ 1,674 m³、エゾマツ 1,131 m³、カラマツ 1,549 m³) で前月比 36% 減。製品は 4,800 m³ で同 5% 減。出荷は低調、在庫は 1~2 ケ月。丸太・製材品の価格は各樹種とも横這いで推移。国内製材工場はアカマツは不採算で、エゾマツはトントン。稼働状況は採算合わず生産調整が続く。

5. 合板

原料調達、国産材、南洋材、米材丸太ともに、価格は全般に横這い。一部南洋材メーカーは、製品の減産により、丸太在庫は増加傾向。米材丸太は長尺合板メーカーを中心に、引き続き堅調な状況。11 月の国内合板生産量は 21.8 万 m³ (対前年同月比 98%) のうち、針葉樹合板は 19.6 万 m³ (同 96%) で、大震災前の水準に回復。出荷量は 18.6 万 m³ (同 86%) で、8 月以降生産量を下回る。在庫量は 14.1 万 m³ (同 108%) で低水準が続く。国産南洋材合板は荷動き、引合いともに低迷し、価格は横這いが継続。針葉樹合板は先月ほどの勢いは無く落ち着いた状況。市場での手当ては引き続き当用買い。価格は東西で差があるものの、大きな変動はない。輸入合板の荷動きは全般的に好調さを維持。川上の在庫は低水準だが、価格は横這いで当用買いが続く。先行きは冬場に入り国産、輸入ともに荷動き、価格動向に大きな変化なく、落ち着いた展開が続く見通し。但し、震災被災地の需要動向は例年と異なるため注視が必要。12 月の輸入量は 26.5

万m³で、大方の予想通り。1～11月の輸入量は337万m³で、前年同期比117%だが9月以降は減少し、調整が進んでいる。

6. 構造用集成材

原料・ラミナは順調に入荷しているが、原料高の製品安の状況に変化なく、現地では減産体制に入っている状況。国内集成材工場の受注は、大きな落ち込みなく横ばいで推移。荷動きは、依然短納期発注が多く、12月までプレカット工場は忙しかったが、年明けてからの動きは積雪地帯で特に悪い状況。販売の先行きは横這いから下向きになると予測。価格動向はユーロ安により先行き下げの傾向。輸入集成材は割安感から各社の契約が進み、まとまった量の契約となった模様。ビルダーの国産材へのシフトは進んでいる。復興関連では需要増が予測される中で、職人不足がさらに深刻化するのではと懸念。

7. 市売問屋

構造材は国産・外材ともに年末より新築・リフォームの需要が多少あり、新年の荷動きを期待する状況。造作材は、構造材同様多少の荷動きはあるが、低価格の良材確保が鍵。外材では、入荷の少ないスプルース、ピーラー等の良材確保がポイントで、需要に対応できるかが課題。全般に動きは低調ながらも、買方に仕事量の格差が顕著になってきた。明るい材料としては、大震災の反省として、多少の在庫確保意識が高まってきている。住宅エコポイント制度の復活等住宅取得支援策が実施され木材需要の拡大期待が高まっている。

8. 小売

国産材の構造材価格は、スギKD柱、小割、ヒノキKD柱、土台とも保合。外材は、米ツガKD平割、正角、北洋アカマツタルキはいずれも弱保合。造作材はスプルース良材が少なく強保合。WW集成材は梁、柱ともに弱保合、RW梁、柱は横這い。合板は、針葉樹、ラワンともに保合。プレカット工場は、仕事が少なく苦戦。構造用集成材の梁、柱ともに多少弱含み。年明け後仕事は多少出てきたが全体的には厳しい。今年は住宅関連税制で優遇措置が延期されるので、住宅建設には追い風となり、期待は大きい。

[【参考資料】需給価格動向 PDF ファイル](#)